







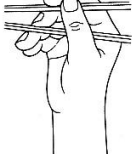

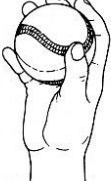





【参考資料】

表 1 把握パターン

大項目	小項目				
握力把握系	 握力把握 -標準型 (包丁, 金槌)	 握力把握 -鉤型 (うちわ, 鞆)	 握力把握 -示指伸展型 (編み棒, 千枚通し)	 握力把握 -伸展型 (皿)	 握力把握 -遠位型 (鋏, ホッチキス)
中間把握系	 側面把握 (鍵)	 三面把握-標準型 (鉛筆)	 三面把握-亜型 I (テーブルスプーン)	 三面把握-亜型 II (箸)	
精密把握系	 並列軽屈曲把握 (縦長の盃, 湯呑)	 包囲軽屈曲把握 (ボール, 茶筒の蓋)	 指尖把握 (画鋏, 輪ゴム)	 並列伸展把握 (トイレtpーパー, 化粧用パフ)	
母指不関与系	 内転把握 (タバコ)				

() 内は代表的な物品の例

*イラストの一部は、鎌倉矩子著『手のかたち 手のうごき』（医歯薬出版、1989）より許可を得て転載。

*フォームと接触箇所定義は下記の文献参照

①鎌倉矩子，田中繁編：『PT・OT のための運動学実習 生体力学から動作学まで』，三輪書店，1994.

②鎌倉矩子, 大村道子, 石井晴美, 三星文子, 三浦頼子: 健常手の把握の様式一分類の試み, リハ医学, Vol114, pp. 57-72, 1978.

表 2 非把握のパターン


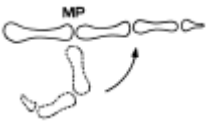





大分類	指列の断面図	小分類	
		MP関節 (母指列以外)が内転優位	MP関節 (母指列以外)が外転優位
A. ろうと系		①朝顔型 (AsまたはBel-I)	②すずらん型 (SnまたはBel-II)
B. 凸面系		①へらI型 (HrIまたはSpt-I)	②やつて型 (YdまたはMpl)
C. 平面系		①へらII型 (HrIIまたはSpt-II)	②平板型 (HbまたはPlt) ③平板特殊型 (HTまたはPV)
D. 凹面系		①屋根型 (YnまたはRf) ②スプーン型 (SpまたはSpn) ③段違い型 (DnまたはTrh)	④扇型 (OgまたはFan) ⑤半球型 (HkまたはBwl)
E. 鈎系		①鈎-MP型 (KgDまたはHk-P) ②鈎-DIP型 (KgDまたはHk-D) ③鈎-PIP型 (KgPまたはHk-P) ④鈎-PD型 (KgPDまたはHk-PD)	⑤熊手型 (KdまたはRk)
F. 深屈曲系		①握りゆるみ型 (NYまたはLF)	
G. 塊り系		①こぶし型 (KoまたはFst) ②円錐型 (EsまたはCon)	
H. 突起形成系		①指さし型 (YsまたはS-I) ②はさみ型 (HsまたはS-D) ③母指突き出し型 (BTまたはS-T)	

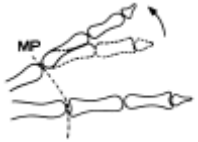

*イラストの一部は、鎌倉矩子著『手のかたち 手のうごき』（医歯薬出版、1989）より許可を得て転載。

参考文献

- ①鎌倉矩子, 田中繁編: 『PT・OT のための運動学実習 生体力学から動作学まで』, 三輪書店, 1994.
- ②松尾道子, 鎌倉矩子, 三星文子, 三浦頼子: 把握以外の静的な手の使用形式— (その 1) フォームの分類の試み—, 総合リハビリテーション, Vol. 7, pp. 773-784, 1979.
- ③鎌倉矩子, 松尾道子, 三星文子, 三浦頼子: 把握以外の静的な手の使用形式— (その 2) 動作課題と手のフォーム—, 総合リハ, Vol. 7, pp. 859-871, 1979.

表 3 指列の動きのパターン

番号	種類	反力の関与	例 図	定 義
①	曲げ	－		同じ指列に属する3または4関節の全部または一部の屈曲により、指先が手掌に接近する動き。DIP・PIP・MP 関節のすべてが屈曲することが多いが、DIP・PIP 両関節のみ、あるいは MP 関節のみの場合もある。母指は IP 関節のみの場合がある。
②	伸ばし	－		同じ指列に属する3または4関節の全部または一部の伸展により、指先が手掌から遠ざかる動き、すなわち「曲げ」の逆。DIP・PIP・MP 関節のすべてが進展することが多いが、DIP・PIP の両関節のみ、あるいは MP 関節のみの場合もある。母指は IP 関節のみの場合がある。
③	巻き上げ	－		同じ指列で生じる屈曲と伸展の混合により、指先が背側へ動くとともに、指先を指の付け根に近づける(“指が短縮する”)動き、後者のみの場合をここに含める。MP 関節伸展と DIP・PIP 両関節屈曲の組み合わせがふつう。母指ではいろいろな組み合わせが起こりうる。
④	突き出し	－		同じ指列で生じる屈曲と伸展の混合により、指先が掌側へ動くとともに、指先を指の付け根から遠ざける(“指が伸長する”)動き、後者のみの場合をここに含める。すなわち「巻き上げ」の逆、MP 関節屈曲と DIP・PIP 両関節伸展の組み合わせがふつう。母指ではいろいろな組み合わせが起こりうる。
⑤	押し付け	＋		指先が向かう方向は「曲げ」と同じであるが、到達点で反力を受け、一部の関節が過伸展位をとるに至る場合、MP 関節屈曲、PIP 関節屈曲、DIP 関節過伸展の組み合わせがふつう。母指ではいろいろな組み合わせが起こりうる。
⑥	弛緩伸ばし	＋		指先が向かう方向は「伸ばし」と同じであるが、移動に伴って開始点で受けていた反力が解除される。MP 関節伸展、PIP 関節伸展、DIP 関節の過伸展解除がふつう。母指ではいろいろな組み合わせが起こりうる。
⑦	引き寄せ	＋		指先に反力を受けながら、“指を短縮させる”(指先を指の付け根に近づける)動き。すなわち「巻き上げ」の特殊型。MP 関節伸展、PIP 関節屈曲、DIP 関節過伸展がふつう。母指の場合はいろいろな組み合わせが起こりうる。
⑧	押し出し	＋		指先に反力を受けながら、“指を伸長させる”(指先を指の付け根から遠ざける)動き、すなわち「突き出し」の特殊型。MP 関節屈曲、PIP 関節伸展、DIP 関節過伸展解除が普通。母指ではいろいろな組み合わせが起こりうる。

⑨	外転	—		指先を手の中央線より遠ざける動き、母指の場合は示指列から遠ざける動きをいう。単独でも、①～⑧のいずれかとの組み合わせとしても起こりうる。
⑩	内転	—		指先を手の中央線へ近づける動き、母指の場合は示指列へ接近する動きをいう。単独でも、①～⑧のいずれかの組み合わせとしても起こりうる。

*イラストの一部は、鎌倉矩子著『手のかたち 手のうごき』（医歯薬出版、1989）より許可を得て転載。

参考文献

- ① 鎌倉矩子，田中繁編：『PT・OT のための運動学実習 生体力学から動作学まで』，三輪書店，1994.
- ② 鎌倉矩子，三星文子，浅海奈津美，中田眞由美，：物体の操作における健常手の動きのパターン，リハビリテーション医学，Vol.23，pp.59-67，1986.